

DSC REPORT

Vol.63
発行 特定非営利活動法人
パートナーシップ・サポートセンター
TEL (052)762-0401

パートナーシップ・サポートセンター

PSC 2008年 主な活動

11月～12月

- 11/4(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座①、保養所打合せ
- 11/5(水) NPO喫茶運営会議、協働RMワーキング会議
- 11/6(木) 「企業との協力関係構築に向けての取り組み」CSR&NPOセミナー講演、特別な休暇制度普及促進事業「経営者セミナー」参加
- 11/7(金) 名古屋市公共事業評価監視委員会
- 11/8(土) あいち未来塾⑤
- 11/10(月) 「NPO法10周年シンポジウム」参加
- 11/11(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座②
- 11/12(水) デンソーユニティサービス研修講師
- 11/14(金) おつみ未来塾運営委員会
- 11/17(月) 愛知県就業促進課訪問、愛知県環境部調査打合せ
- 11/18(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座③
- 11/19(水) 地域福祉型福祉事業担い手フォロー事業相談
- 11/20(木) SV会議
- 11/21(金) 中部電力環境懇談会
- 11/23(日) 第6回パートナーシップ大賞発表・贈呈式
- 11/25(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座④、経産省&ソシオエンジン打合せ(東京)、「新公益法人制度実践セミナー」(東京)参加
- 11/26(水) 愛知県女性総合センター(ウィルあいち)運営会議、協働RMワーキング会議、愛知県来所
- 11/27(木) なごや環境大学、名古屋開府400年記念事業実行委員会
- 11/28(金) 横浜市市民活動推進局来所
- 11/29(土) みとよ青年会議所講演(香川)
- 11/30(日) ボラみみより情報局総会参加、全国公共経営機構(準)会議(東京)

- 12/1(月) 市民セクター全国会議2008(東京)、民間支援センターCEOミーティング(東京)
- 12/2(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座⑤
- 12/3(水) アジア保健研修財団「NPO人材育成研修」個別指導
- 12/4(木) 環境・CSR調査分析検討委員会③、ソシオエンジン来所、「協働アイデアコンテスト」CIAC打合せ
- 12/6(土) みやぎNPOマネジメントセミナー(大崎市)講師、あいち未来塾⑥
- 12/7(日) みやぎNPOマネジメントセミナー(石巻市)講師
- 12/8(月) NPO喫茶運営会議、名古屋開府400年記念事業実行委員会
- 12/9(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座⑥
- 12/10(水) 保養所コンサル
- 12/11(木) 「信頼されるNPOのための協働力向上セミナー」①
- 12/12(金) 地域福祉型福祉事業担い手フォロー事業相談
- 12/13(土) あいち子どもNPOセンター理事会・学習会
- 12/14(日) あいち未来塾塾生自主企画活動(フィールドワーク)
- 12/15(月) 愛知県就業促進課訪問
- 12/16(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座⑦
- 12/17(水) 第3回企業&NPO協働アイデアコンテスト
- 12/18(木) SV会議
- 12/19(金) 第3回企業&NPO協働アイデアコンテスト団体フォロー
- 12/21(日) パートナーシップ大賞調査委員会
- 12/23(火) 福祉のまちづくりリーダー養成講座⑧
- 12/25(木) 経産省地域新事業創出発展基盤促進事業委員会(東京)
- 12/26(金) 全国経営公共機構(準)会議(東京)

事務局だより

パートナーシップ大賞事務局を担当して4年目になりますが、ハードスケジュールの中、最終プレゼンの準備をさせていただく団体や企業の担当者さんとは、発表前日までやりとりが続きました。何とか準備が整い本番を目前にとある企業担当者さんとの電話でのやりとりでは「それではプレゼン頑張ってください」と声をかけさせていただきましたら「水野さんも頑張ってください」と逆に励まされ、ずっと張りつめていた心がほっ♥と温かくなりました。最終プレゼンほどの事業も素晴らしいもので、仕事を忘れて聞き入ってしまうほどで、素直に感動しました。この感動と出会いが、次の事業に繋がるようにしたいと思っています。2009年もよろしくお願いいたします。(水野)

事務局連絡先

特定非営利活動法人 パートナーシップ・サポートセンター
〒464-0067 名古屋市千種区池下1丁目11番21号 ファースト池下ビル4F
TEL (052) 762-0401 FAX (052) 762-0407
E-Mail info@psc.or.jp
URL http://www.psc.or.jp 発行人・岸田眞代
今回のPSC REPORTの印刷は、(株)デンソー総務部にご協力いただきました。

PSC PICK UP! ピックアップ

生物多様性をテーマに

『環境NGOと市民の集い』

「市民・NGO・企業が協働して生物多様性の豊かな社会へ」をテーマに、NGO・企業との協働の可能性を探り、環境問題の啓発、市民・NPO/NGO・企業のネットワーク促進を図ることを目的とした集いを開催します。

環境問題に関心のある方、必見の集いです! NPO/NGO、企業、行政、そして一般市民の方々からも申し込みが続々。ネットワークづくりにもこの機会にぜひご参加下さい。

◆日時:平成21年1月23日(金) 12:30~18:00

◆会場:ウィルあいち 大会議室(名古屋市)

◆参加費:無料(交流会参加費 2,000円)

- ・基調講演「企業のCSR活動とNGOの協働が創り出す生物多様性の豊かな社会へ」
講師 香坂 玲氏(名古屋市立大学准教授)
- ・地球環境基金助成団体の助成活動成果の発表(3分科会)
- ・ポスター形式活動発表
- ・企業とNPOとの協働事例発表、全体意見交換会、交流会

◆主催:独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金

◆後援:環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)

人をつなぐ未来につなぐ新春交流会

2009年1月26日(月)18:00から「PSC新春交流会」を開催いたします。

PSCの事務所と同フロアに新たに一室がふえ、ピアザと併せて交流サロンや各種講座の教室としてみなさまにも利用いただく機会があると思います。

まずは会員のみなさまにご披露したく、オープニングパーティを恒例の新春交流会を兼ねて開催いたします。

新年を迎え、新たな出会いや会員相互のコラボレーションが誕生するよう、みなさまお気軽にご参加ください。お待ちしております。*詳しくは同封のチラシをご覧ください。(下平)



「第5回パートナーシップ大賞」受賞事例集『点から線へ 線から面へ』のご紹介

11月23日発売 会員価格1,000円(税込)
(定価1,050円)

点から線へ 線から面へ



初めての東京開催となった第5回パートナーシップ大賞(2007.11.10)。グランプリ事例「点から線へ、線から面へのまちづくり」事業をはじめ、ヒアリング調査に伺った12事例を紹介しています。今回は事例を中心にし、一人でも多くの方にご覧いただけるよう、お求めいただきやすい価格にしました。回を追うごとに進化し、様々な形を見せる協働事例をぜひお確かめください。

Index

1. ■新春挨拶 CSRとNSRをつなぐ時代へ
■第6回パートナーシップ大賞グランプリ発表&贈呈式
2. ■グランプリ受賞事業「地域社会の防災力の向上に向けた協働事業」
■ミニ講演「パートナーシップを進めるエココミュニティ」
3. ■第6回パートナーシップ大賞【5事業】
■協働の夢に乾杯!懇親会
4. ■第3回企業&NPO協働アイデアコンテスト
■第3回協働アイデアコンテスト「講評」
■最優秀受賞コメント 会場の声援に感激!
5. ■地に足が着いたSRに感銘
■「NPO誕生(本講座第1号)!!」かも?
■相互啓発でレベルアップ!
■PSC岸田の全国行脚
6. ■PICK UP
■「環境NGOと市民の集い」
■新春交流会
■2008年主な活動11月~12月
■事務局だより

新春挨拶 CSRとNSRをつなぐ時代へ

新年のごあいさつを申し上げます。

世界の経済が同時に動く時代。私たちの生活を直撃し、急激に雇用状況が悪化しています。こういう時代だからこそ、なおCSR(企業の社会的責任)が問われます。今年こそ、CSRを高く掲げてNPOとともに歩む企業が増えることを期待したいものです。

一方、昨12月1日にはNPO法施行10周年を迎え、また同時に新公益法人制度が発足するなど、私たちNPOの周りでは確実に時を刻んでいます。

私たちパートナーシップ・サポートセンター(PSC)も、昨年7月にはみなさまとともに10周年を祝うことができました。また、2002年から始まった「パートナーシップ大賞」事業は着実に日本各地へと広がり、11月に開催した「第6回」はNPOと企業の協働のみごときに参加者がみな感動するほどに成長しています。

とはいえ、PSCにとって今年には正念場。社会における役割をどれだけ自覚し、ミッションを高く掲げていかにその使命を果たすか。NSR(NPOの社会的責任)のひとつとして、悪化した雇用の一部を担える力を蓄え、それがNPOの発展へとつながる時代にしていきたいものです。

新しい年、新たな地平をめざして、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2009年元旦

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
代表理事 岸田 眞代



第6回パートナーシップ大賞グランプリ発表&贈呈式! 「地域社会の防災力の向上に向けた協働事業」

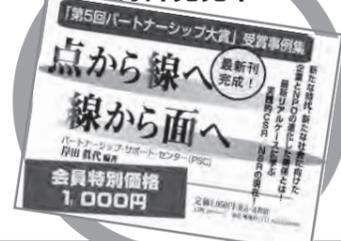
11月23日(日)「第6回パートナーシップ大賞」の最終審査と発表・贈呈式が、ウィルあいちにおいて、盛大に行われました。全国から応募のあった22事業のうち、第一次選考、第二次選考を通過した6事業による最終プレゼンテーションとその結果発表に注目が集まりました。

全国から集まった120名余りの来場者のみなさんが、各事業工夫を凝らしたプレゼンに熱心に耳を傾け、グランプリの行方を見守りました。今年は二次選考の段階から非常に接戦で、最終選考でも各審査員らの白熱した議論が繰り広げられました。

その激戦を勝ち抜いてグランプリに輝いたのは、NPO法人プラス・アーツ(大阪府)と、東京ガス株式会社(東京都)との協働事業「地域社会の防災力の向上に向けた協働事業」です。阪神淡路大震災の経験にアートやデザインの力をプラスし、防災に役立つ新しいコンテンツを次々に開発しているNPOと、災害時に市民の生活を守るインフラ企業とのコラボレーションは、まさに新しい協働のカたちとも言えます。地域の防災力の向上というテーマは、地震大国日本の各地域が抱える問題でもあり、全国への広がりが期待される所です。(水野)



好評発売中



第6回パートナーシップ大賞グランプリ受賞事業

地域社会の防災力の向上に向けた協働事業

NPO法人プラス・アーツ 東京ガス株式会社

地域の防災力向上に何が必要か～防災に取り組みたいと考えていた企業と、「防災の日常化」をテーマに事業を展開していたNPOが、東京エリアで、若いファミリー層が楽しみながら学べる新しいカタチの防災訓練の普及や、市民及び社員向けの防災啓発ツールの開発などを行っている。

審査員コメント

NPOと企業の双方が同じパッションで地域の防災を行っており、とくにNPOのまっすぐな目を見て、それに応えなくてはいけなくて感じた企業。そしてそう思わせたいNPO。この両者の協働がみごとにイコールでつながったと思います。WIN-WIN-WINという当事者同士だけではなく、地域や社会とつながっている事業として、みごとだと言えるのではないのでしょうか。本当におめでとうございました。

(岸田眞代 (N)パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

受賞者コメント

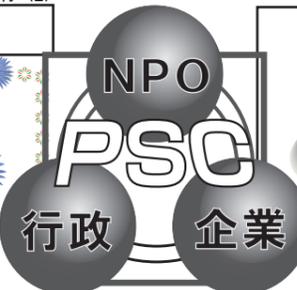
栄えある『パートナーシップ大賞グランプリ』の受賞誠にありがとうございました。

NPOと企業がお互い“情熱”を持ち続けながら社会貢献に取り組むことの大切さを社会に示せたことが本当によかったと思います。これからも「NPO-企業-社会」の「WIN-WIN-WIN」の関係を大切にしながら、地域の防災力向上に向けてクリエイターの方々と力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

NPO法人プラス・アーツ 理事長 永田宏和

「一緒に親子を対象とした防災イベントをしませんか」と、2005年12月に大阪から東京にかかってきた一本の電話。プラス・アーツの永田さんからかかってきたこの電話から、全てがはじまりました。地域の遠近ではなく、規模の大小ではなく、社会を変えたいという「こころざし」が出会うことで、どんなことでも取り組むことができると、永田さんと出会って分かりました。我々の取り組みが、これから協働を検討している皆さまの参考に少しでもなればと思います。

東京ガス㈱ 広報部社会文化センター 課長 山田俊彦



地に足が着いたSRに感銘!

「企業の環境・CSR活動等に関する調査・分析および促進へ向けたアプローチ・ツールの検討Ⅲ」の一環として、中堅・中小企業を対象とした環境・CSRヒアリングを行いました。(愛知県内5社、県外2社。)

地域が抱える課題解決や持続可能な発展のために取り組みを進めていくには、日本の全企業の約9割を占める中小企業の存在は大きく、先進的な事例のヒアリングによって、SR(組織の社会的責任)という視点から企業のマネジメントとNPOの課題意識が結びついた協働を展開するヒントがいくつか得られました。

ヒアリングを終えて思うことは、「本業の営みの中で発生した課題解決からCSRが始まっていること」「企業活動を行っている地元を強く意識し、地域密着で行政・市民共に行う活動が多い」ことが特徴的でした。それはすでに「SR」を実践している感があります。そして何より従業員が「この企業に勤めてよかった」と思えるような企業になろうと努力されていることに深い感銘を受けました。(石田)

企業名	所在地
アマタ株式会社 【総合環境ソリューション業】	東京都中央区
小林クリエイティブ株式会社 【印刷・同関連業】	刈谷市
大栄サービス株式会社 【産業廃棄物処理業】	兵庫県西宮市
株式会社マツザワ瓦店 【屋根工事業、板金工事業】	名古屋市中区
前田パルプ工業株式会社 【水道用パルプ及び継手製造販売】	名古屋市港区
株式会社桃の館【菓子企画・製造・販売】	北名古屋市
株式会社山田組 【土木工事、環境・景観整備工事等】	名古屋市中区

*主な環境・CSRの取り組み
再資源化加工業務、代替原料、燃料研究・開発・販売。
環境に配慮した工法の実践。現場で廃棄物を排出しない技術の開発。製造工程で発生する食品廃棄物のリサイクルと削減。
グリーン購入体制と工程内での化学物質管理体制の整備。
産廃処理に伴う資源・エネルギーの環境影響を把握、公表。
ECOMOTIへの参画。環境CSRプロデューサー養成講座開催。小学校の環境学習への出前授業ほか

ミニ講演 第4回パートナーシップ大賞受賞その後 「パートナーシップで進めるエココミュニティ」

全国の活動団体の方々が集まってお互いの活動紹介をしようというのは、私自身、非常に有意義なものだと感じています。こども環境活動支援協会(以下LEAF)の主な活動は、地域に根ざした持続可能な社会に向けた教育、自然体験活動の推進、企業会員と連携した環境教育、世界の子どものための環境活動を交流させる、の4つがあります。持続可能な社会に向けた私たちLEAFの役割は何か?それは、PSCと同じように市民・事業者・行政の三者を繋げていく、地域の中の繋ぎ役として、様々な事業展開をしていくことです。

その一つ、私たちが賞をいただいた事業「企業会員ができる子ども達への環境学習支援」は、「衣」「食」「住」「エネルギー」「びん」「文具」6つの分科会をつくり、それぞれのテーマで関係の企業がチームをつくって、子どもたちに対して学びを支援してきました。

2003年にこのプログラムを開発して現在6年目、我々の活動は大きな節目に来ています。私たちは、地域の中で人づくり、地域づくりを進めようと考えています。キーワードは、時代を繋ぐ、地域を繋ぐ、世界を繋ぐ、主体を繋ぐ、課題を繋ぐ、様々な繋がりを地域の中にどんどん投げかけていき、そこでできあがってきた関係性を元に、また新たな地域づくりへと発展させていく。それが、当たり前のごとくできる社会を目指したいと思っています。そのために、企業とNPOとの連携だけでなく、あらゆる主体のマルチパートナーシップを日常的に構築できるような地域づくりが必要と考えます。

ここで受賞させていただいたことをバネにして、更にステージを上げたパートナーシップの事例を創ることができれば、と思っています。

第4回パートナーシップ大賞グランプリ受賞
NPO法人こども環境活動支援協会
事務局長 小川雅由氏



東京ガス&プラス・アーツ協働へのプロセス

2005 12月	プラス・アーツ永田氏からの電話がきっかけ。全国各地の企業に協働を働きかける電話をしたところ、「詳しく聞かせてほしい」とたった1社だけ応答があった。それが東京ガスだった。 20枚ものFAXが送られてきた。圧倒されつつも志を感じた東京ガス山田氏は、翌朝電話をかけ、「会って話しましょう」。
2006 1月	山田氏と永田氏、初めての対面で意気投合。ふたりは「地域の防災力向上に何が必要か」本音をぶつけ合いひんぱんに議論を重ねる。
2006 9月	東京ガスの企業館「環境エネルギー館」でイザ!カエルキャラバン!開催。2600人集客で大成功。
2007 3月~	震災時のガスメーターの復帰方法の浸透を課題と感じていた時、永田氏から「身近に置きたくなる防災グッズを作ろう」と提案。非常食にもなる「ドロップはどうか」と検討。
2007 8月	当初、注文がきたのは5000個(最低発注単位は5000個)。山田氏は製造発注をすべからず迷うが、思い切って発注。デザイナー寄藤氏と出会い、ドロップ缶の裏側に復帰方法を分かりやすいイラストで表現し、徐々に注文が増加。 東京ガスの企業館「ガスの科学館」でイザ!カエルキャラバン!開催。6400人集客で再び大成功。
2008 3月	防災担当部署を中心とした社内全体の協力により注文が急増。現在まで累計145000個の注文に。しかも全国のガス会社にも活動が拡大。 防災担当部署より、社員の被災軽減策の取り組みにあたり、「知恵を貸してほしい」との相談。山田氏は永田氏に相談を持ちかけた。防災担当者を変え、三者でアイデアを練る。再び寄藤氏と展開について相談。この取り組みの意義を伝えるコンセプトづくりが大切とアドバイスされ、「SAVE YOURSELF」のキャッチフレーズを考案。
2008 9月	「SAVE YOURSELF」キャンペーングッズとして東京ガスオリジナル防災大判ハンカチを寄藤氏のデザインで制作。社員1万人に配布。
現在	エンドユーザー向けツール(防災に関するパンフレット等)の制作に関する検討が進行中。

●●●協賛企業●●●
三井住友海上火災保険㈱・スマイルハートクラブ・トヨタ自動車㈱
・㈱デンソー・㈱デンソーユニティサービス・シーキューブ㈱・㈱ア
バンセコーポレーション・(財)中部産業活性化センター・京阪電
気鉄道㈱

「NPO誕生(本講座第1号)!」かも? ＜福祉のまちづくりリーダー養成講座＞

11月4日(火)~12月23日(火・祝)全8回にわたり「福祉のまちづくりリーダー養成講座」(主催:社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会)を開催しました。本講座は「地域の支え合いに挑戦したい」という方を支援する講座で、夢を事業展開できるかたちに作成します。8名の受講者のみなさんの夢は「幼児から高齢者までみんなが集まれる居場所づくり」「障害者の就労支援」「ニート・不登校支援」など。みなさんの話からは「自ら動かないと始まらない」という直向きさが伝わってきました。早くもNPO設立申請をされた方もあります。ぜひみなさんの応援をお願いします。(下平)



相互啓発でレベルアップ! ＜信頼されるNPOのための協働力向上セミナー＞

情報公開の重要性や事業報告書の適正化を図り、協働の全県拡大を目的として「信頼されるNPOのための協働力向上セミナー」(主催:愛知県)が始まりました。初日の内容は、協働の基本理解とリーダーシップの要件。ワークショップ後の皆さんの声...「合意形成の方法がわかった」「スタッフと今日の内容を共有して、自団体にリーダーを育てていきたい」。交流も活発で、みなさん大きな収穫があったようです。(下平)

PSC岸田の全国行脚

今回も岸田は日本列島西へ北へと駆け回りました(ちょっと、オーバーかな?!)。PSCがサポートして経済産業省の事業を実施しているNPO会員さんの講座を二つ~NPO対象の企業訪問時のマナー講座(10/29)と、企業向けCSRと協働講座の実施(11/6)。「第6回P賞」(1~3ページ参照)直前には中部電力の三重県内の風力発電・水力発電等の視察を兼ねた第3回環境懇談会(11/21)。P賞が終わると新公益法人制度についての勉強会(11/25)と全国公共経営機構(仮称)の立ち上げに向けてのNPO支援センター有志の会合(11/28)で2度東京へ。

翌日の11/29には四国香川県のみとよ青年会議所の市民まちづくり講演会で、実家の近くへ。婿っ子が最近NPOを立ち上げたとかで仲間とともに聞きに来てくれた。12/1にはNPO法10周年とCEO会議で3度目の東京。12/2はPSCで「まちづくりリーダー養成」講座。12/3はJICAの依頼により財団法人アジア保健研修財団(愛知県日進市)で企業との協働案の立案を指導。「これまで職員だけでは煮詰まってしまって、それ以上先にすすめられなかった事業案をぐっと前進させることができた」「ああ、まさにこういうことが知りたかった!」とお礼メールが届いた。

12/6-7の土日は宮城県へ。大崎市、石巻市で宮城県主催のNPOマネジメントセミナーに秋田や福島からの参加者も。雪がちらつく東北から6時間かけて名古屋に戻った時はすっかり深夜、でした。12/11は協働とリーダーシップ研修(左記参照)。12/25-26は、経産省関係等でまたまた東京の予定。今年もよく働きました!(12.18 岸田)

第6回パートナーシップ賞【5事業】

遠野ツーリズム体感合宿免許プログラム事業

NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク
株式会社高田自動車学校

閉鎖した自動車学校の後に、隣の市の別の自動車学校が進出し、合宿教習型に農作業体験や乗馬体験等を取り入れ、入校生が5年前の3倍に。まちの活性化にもつながった。



審査員コメント

めずらしいビジネスモデルと思って感心して聞いていました。最初は学生の免許は季節変動があるから大変だろうなと思っていましたが、奇想天外な事業で非常に感心しました。自動車学校さんはこの事業をきっかけに、民話の里などをまた復活させるということで、新しい地域起こしに期待しています。

(今田忠氏 市民社会研究所所長/前日本NPO学会会長)

TOA MUSIC WORKSHOP事業

NPO法人子どもとアーティストの出会い
TOA株式会社

小中学生を対象に、学校が利用しやすい方式で「アートを通じた教育」を推進。音楽家がリードし全員参加のライブパフォーマンスで「音楽に参加する楽しさ」を体験することができる。



審査員コメント

非常に印象的だったのは、企業とNPOが協働事業を行うときに、激しい議論があって、それがまたプログラムを高めていっているところ。協働の理想的なスタイルがここにあるなと思いました。今後は学術的な視点も入れて、ぜひ、研究も重ねて社会に発表していただきたいと思います。

(嶋田実名子氏 花王(株)コーポレートコミュニケーション部門CSR推進部長)

環境NPOの組織基盤強化支援事業

NPO法人地球と未来の環境基金
パナソニック株式会社

環境に取り組むNPOが人材育成や組織マネジメント力の強化等、組織基盤強化の取り組みを資金面で応援し、コンサルティングなども行う総合的なNPO支援プログラム。



審査員コメント

企業は公器であるというお話とても胸に染み入ります。自分たちができることをどのような形で表せるか、そういった形が今回の助成制度になったと思います。NPOは日ごろ助成制度に対して足りないところをいかに形にするかを実現されていて、今後の大きな可能性を秘めた事業だと思います。

(寺内昇氏 日本財団 システム統括グループグループ長)

「5本の樹」による生物多様性保全事業

シェアリングアース協会
積水ハウス株式会社

企業側は、NPOの協力を得て、住宅建築に伴う造園緑化で、園芸種でなく、地域の生き物にとって利用価値の高い自生種・在来種中心に植栽する「5本の樹」計画を展開。



審査員コメント

夢に溢れてる。花の大きさや咲く時期などによって、寄ってくる鳥や蝶々が違うことなど、楽しい話は今の世の中では非常に貴重だと思います。地球環境や生物多様性の問題を非常に身近な問題として感じられることも意味が大きい。そしてお互いの専門的な知識が活かされたパートナーシップが行われています。

(原田勝広氏 日本経済新聞社編集委員)

多摩センター百貨店ビル子育てひろば事業

NPO法人シーズネットワーク、NPO法人多摩子ども劇場
新都市センター開発株式会社、多摩センター三越、
IDC大塚家具多摩ショールーム

少子高齢化が進む多摩ニュータウンで、地元3企業と2NPOが運営協議会をつくり、各々の特性を活かして駅前に「子育てひろば」を常設。現在は年間1万組超の家族が訪れる。



審査員コメント

自分たちの住む町を自分たちの手で、という取り組みに大変感動いたしました。子どもたちに対する良き体験の提供、母親たちが子育てを楽しみながら、自分たちの自己実現もしていく。NPOと企業が信頼しあっている姿が、住み続けたい街づくりのエネルギー源になると思いました。

(福井美知子氏 石坂線21駅の顔づくりグループ代表)

協働の夢に乾杯！懇親会

今田審査委員長の乾杯の音頭で懇親会がスタート。瞬く間に会場内では名刺交換が始まり、発表者のみなさん、審査員、調査スタッフや一般参加者の方々も交えて活発に交流し、場内は次なる協働へのエネルギーがあふれていました。

和やかな中にも活気に満ちた雰囲気、ホッと心な地良い気分を感じました。(調査スタッフ 日下部純子)



(CIAC & PSC) 第3回企業 & NPO 協働アイデアコンテスト 最優秀賞は「訪問理美容用シャンプー台開発、販売事業」に決定!!



▲ たくさんの方がプレゼンテーションに集まって下さいました。



▲ 交流会も大盛況。あちこちで和やかに歓談する姿が見られました。

(財)中部産業活性化センター(CIAC)とPSCの協働による「第3回企業 & NPO 協働アイデアコンテスト」を12月17日(水)名古屋栄ビルにて開催しました。このコンテストはNPOから企業へ協働のアイデアを直接プレゼンテーションする場を設け、社会貢献となる協働事業を育てていくことが目的です。

CIAC小林専務理事の開会挨拶の後、100名の来場者を前に、書類審査を通過した5アイデアをプレゼンテーション(応募総数21アイデア)。5名の審査員(愛知県、東邦ガス、三菱東京UFJ銀行、CIAC、PSC)と来場者のみなさんの投票により、最優秀賞は(N)全国福祉理美容師養成協会の「訪問理美容用シャンプー台開発、販売事業」に決定しました。

「発表者の熱い思いに引き込まれた」「いろいろな地域の課題に取り組もうとしている事例を知ることができた」—交流会では、「もっと詳しく聞きたい」という企業の方々が積極的に歓談されていました。審査結果の発表、各賞授与、講評の後、最優秀賞を受賞した(N)全国福祉理美容師養成協会の赤木理事長が受賞の挨拶。「父親が闘病中に洗髪してやれず他界してしまった…」と言葉に詰まった姿にどれほど深い想いを抱いているかがひしひしと伝わってきて、会場は応援の拍手に包まれました。

PSCはアイデアの協働実現を積極的にバックアップしていきます。関心を持たれた方はぜひ事務局までご連絡ください。(塩田)



● 審査結果 ●

	団体名	所在地	事業名	事業概要
最優秀賞	NPO法人全国福祉理美容師養成協会	愛知県	訪問理美容用シャンプー台開発、販売事業	訪問理美容師・看護師・在宅介護者(家族等)は、寝たきりの方や車いすの方の洗髪に苦労している。そこで、簡便に利用でき、かつ安価なシャンプー台の開発・販売を目指す。
優秀賞	NPO法人セカンドハーベスト名古屋	愛知県	食料品関連企業とのフードバンク協働事業	この東海地区にもフードバンクを！地元の企業が抱える市場性のなくなった食料品の寄付を募り、それを生活困窮者や福祉施設へ提供することで「人」と「食」を守る。
特別賞	NPO法人ぎふNPOセンター	岐阜県	使用済みペットボトルキャップの岐阜県内再資源化事業	岐阜県内の使用済みペットボトルキャップを再資源化ポストに集め、県内のリサイクル業者に売却し、その代金を世界の子どものワクチンに換えるという「限られた地域内循環システム」をつくる。
奨励賞	NPO法人武豊文化創造協会	愛知県	地球とところに優しい環境アート「ゆめホテル」を用いた、環境行動啓発事業	太陽光パネルで充電した充電池や省エネ発光素子であるLEDを用いた環境アート「ゆめホテル」を活用して環境行動啓発活動を実施する。小学校等での環境学習講座、家庭へのゆめホテルの貸出しなど。
	NPO法人みえきた市民活動センター	三重県	メンバーズ プロジェクト—大企業が、地域の一員として、地域の課題を解決する—	三重県北部にも拠点をおいて活動している大企業が、地域の一員として社会的責任を果たすため、NPOと交流しながら一緒に企画提案をして地域の課題解決に取り組んでいく。

第3回協働アイデアコンテスト『講評』

PSC代表理事岸田眞代

～社会からの期待が集まった「訪問シャンプー台開発」事業～

パートナーシップ大賞の裾野を広げようと、2006年にはじまったこの事業は今回で3回を数えます。参加者は100名を超え、各団体のプレゼンテーションも格段によくなっています。全体として協働アイデアのレベルが上がっていて、審査は大接戦となりました。

最優秀賞となった(N)全国福祉理美容師養成協会さんの「訪問理美容用シャンプー台開発、販売事業」は、寝たきりの人ばかりでなく、長期入院の方にとってもすぐにも必要な、社会性の高いものです。参加者の声にもあったように、社会のみんなが待ち望んでいる、期待されている事業だと思います。

ぜひ、パートナーシップ大賞に応募できるような協働事業として実現し、発展させていただきたいと思います。そのために、私たちパートナーシップ・サポートセンター(PSC)も中部産業活性化センターさんとともに力を尽くしていくつもりです。

最優秀賞受賞コメント 会場の声援に感激!

★★★★★★★★

この度は、最優秀賞にお選び頂き、ありがとうございます。最終審査会にて「実現してほしい」との多数のご声援をいただきましたことを励みに、「誰もがその人らしく美しく過ごすことができる社会の実現」に向け、「私たちの出来ること」を探求し、一つずつ課題解決に取り組んで参りたいと思っております。

(理事長 赤木勝幸)



(N)全国福祉理美容師養成協会 岩岡ひとみ事務局長(左)と赤木勝幸理事長(右)